



市民の声を施策に反映
まちづくりネットモニター
を実施しました



ターゲット 16.6

令和2年4月6日
(ネットモニターに関すること)
郡山市政策開発部広聴広報課
担当：上田 利実
TEL：924-2061
※ 調査内容については担当まで。

SDGs ターゲット 16.6 「全ての人々に説明責任のある包摂的な制度を構築する」

2019年度まちづくりネットモニター（第11回調査）の調査結果をお知らせします。

○調査概要（詳細は別紙のとおりです。）

・第11回(12月18日(水)～27日(金))

テーマ	こおりやま広域圏について
目的	幅広い住民の意見を反映させ、より一層魅力的な広域圏を目指していくため
考察	全体の認知度は5割を下回っており、特に女性（29.9%）については男性（63.8%）の半分にも満たないことから、様々な対象に向けた効果的な周知方法について検討していく必要がある。
回答者数/率	323名(男性 149名 女性 174名) 89.7%
担当	政策開発部政策開発課 高橋 勇介 TEL：924-2021



ウェブサイトに
アクセスできます。

https://www.city.koriyama.lg.jp/shiseijoho/koho_kocho/netmonitor/index.html

<まちづくりネットモニター>

郡山市では、市民の皆さまの意見等をお聞きする取り組みとして、様々な機会や方法等により実施しており、その一つとして、市民モニターの方々にご協力をいただきインターネットを活用した市政アンケートを実施しています。
(モニター数：360名(男性 159名、女性 201名))

今回は、2019年度第11回目の調査となります。

2019年度まちづくりネットモニター第11回調査結果
 テーマ「こおりやま広域圏について」

本市を含む近隣市町村は、社会的、経済的な結びつきが強く、様々な分野で密接な関係を構築してきました。

2018年3月には新たな広域連携制度により「こおりやま広域連携中枢都市圏」を形成し、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するため、具体的な取組を開始したところです。公共施設の相互利用促進や、産業や環境分野等の共同研究、そして先の令和元年東日本台風発生時の相互支援等、様々な分野において協力・連携が進められています。

今後、幅広い住民の意見を反映させ、より一層魅力的な広域圏を目指していくため、アンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。

(政策開発課)

調査概要

- 調査期間 令和元年12月18日(水)～12月27日(金) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 159名 女性 201名)
- 回答者数 323名 (男性 149名 女性 174名)
- 回答率 89.7%

《回答者内訳(人)》

性別/年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	5	5	14	33	29	20	36	7	149
女性	2	9	43	70	34	14	2	0	174
合計	7	14	57	103	63	34	38	7	323

《広域連携への理解》

96.3% (311人) が賛同する、3.7% (12人) が賛同しないと回答

《こおりやま広域圏の認知度》

45.5% (147人) が知っている、54.4% (176人) が知らないと回答

《交流の内容》

- 「買い物や外食等」(61.9%)、「親戚や友達等との付き合い」(59.3%)
- 「観光地、公園、レジャー」(50.3%)、「文化スポーツ施設等利用」(26.0%)

《圏域の共通課題》

- 「少子高齢化の進行」(57.3%)、「まちなかの賑わいがない」(41.5%)、
- 「交通の便が悪い」(34.1%)、「人口が減ってきている」(31.3%)

《連携を深めていくべき分野》

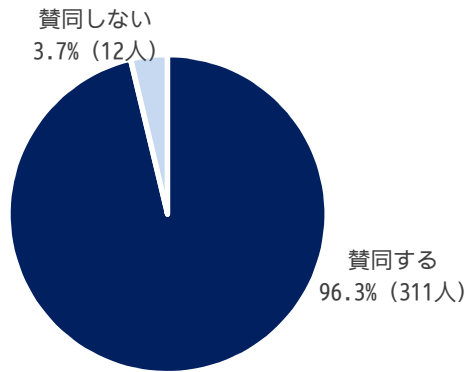
- 「まちづくりや交通」(59.8%)、「観光や交流」(39.0%)、
- 「仕事や産業」(32.2%)、「医療や福祉に関する分野」(26.6%)

【考察】

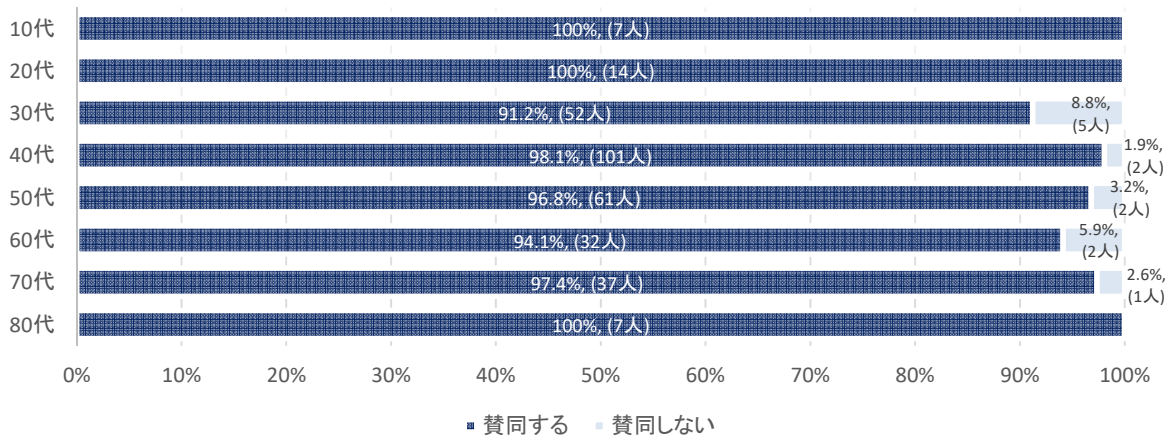
- ・広域連携の推進自体についてはほとんどの方が「賛同」と回答している。全体の認知度は5割を下回っており、特に女性(29.9%)については男性(63.8%)の半分にも満たないことから、様々な対象に向けた効果的な周知方法について検討していく必要がある。
- ・買い物やレジャー、親戚や友達の付き合い等、連携市町村と関りをもっている方がほとんどであり、双方向的な交流が圏域内で行われている。
- ・中枢都市(郡山市)の役割については「リーダーシップ」という意見が多い。一方、連携市町村の役割については「連携への理解・協力」のほか「それぞれの強み・特性の発揮」といった回答も多く見られ、連携への主体的な参画が求められている。

問1 近隣市町村と広域連携を進めていくことについて、どのように思いますか？
(1つ選択)

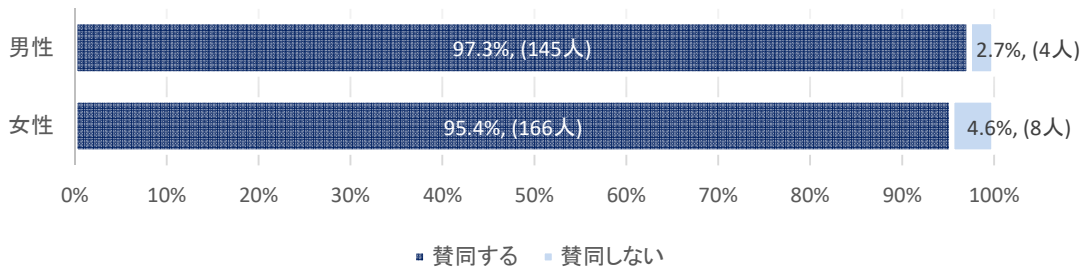
(回答者：323人)



年代別



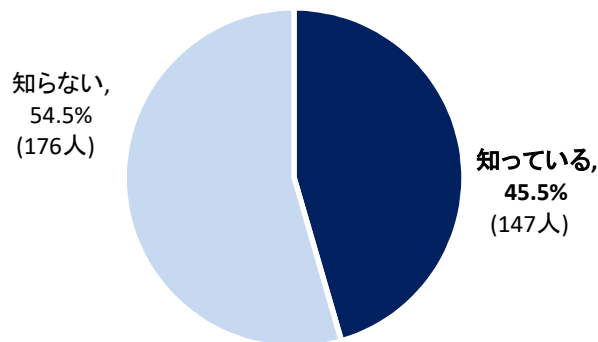
性別



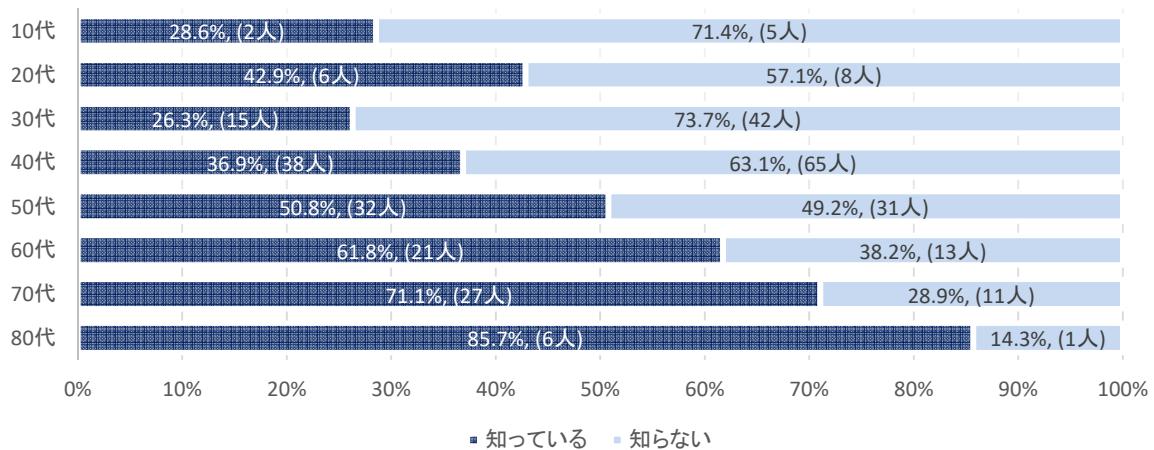
近隣市町村との広域連携推進について、全体の96.3%が賛同すると回答。
年代別に見ても、全年代において90%を超える方が賛同と回答しており、特に10代、20代及び80代では100%となっている。
また、性別でも男女差はほとんどなく、「広域連携の推進」については、概ね理解を得られている。

問2 「こおりやま広域連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）」についてご存じですか？
（1つ選択）

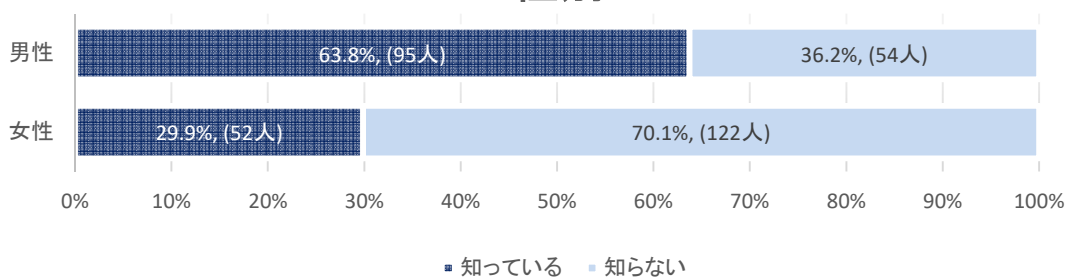
（回答者：323人）



年代別



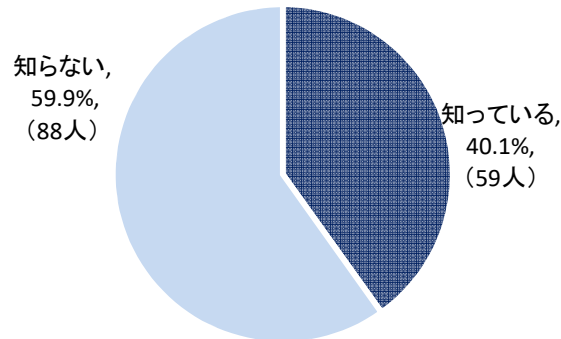
性別



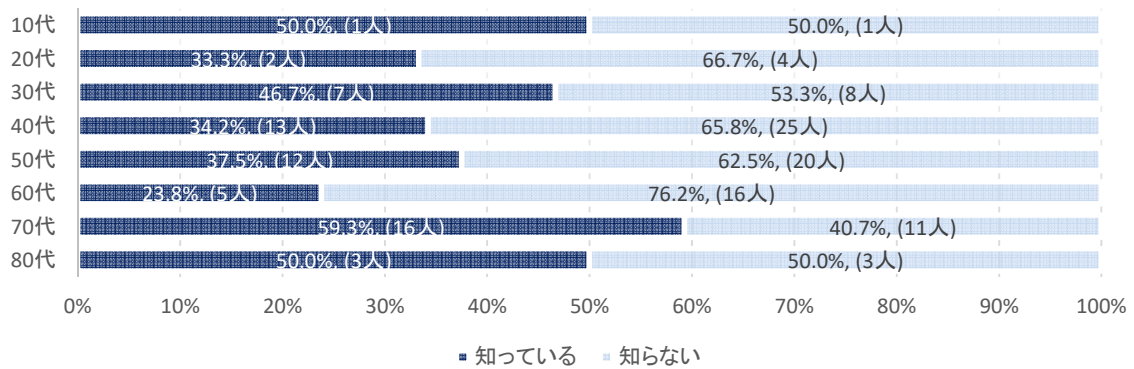
こおりやま広域圏の認知度について、全体の半数弱の45.5%が知っていると回答。
年代別では、80代の認知度が85.7%で最も高く、30代の認知度が26.3%で最も低い。全体的に若年世代の認知度が低く、年代が上がるにつれて高くなる傾向がある。
性別では、男性の認知度が5割を上回る63.8%、逆に女性が5割を大きく下回る29.9%であり、その差は33.9ポイントと大きい。

問3 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。10月に本市と二本松市新たに連携協約を締結し、16市町村による圏域になることをご存じですか？
(1つ選択)

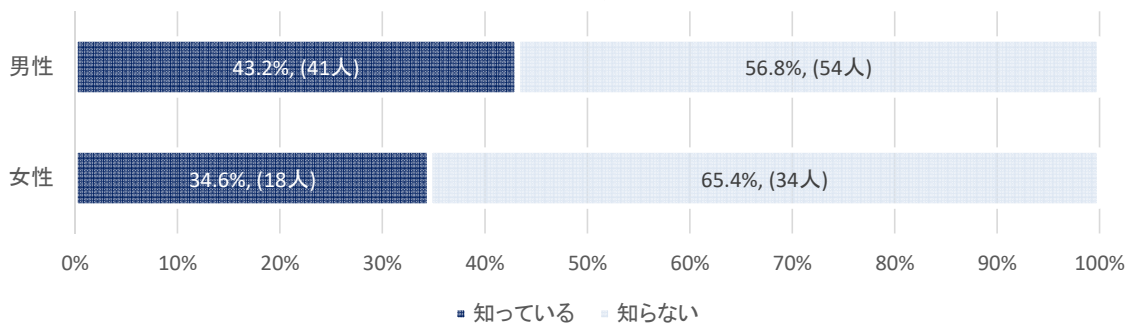
(回答者：147人)



年代別



性別



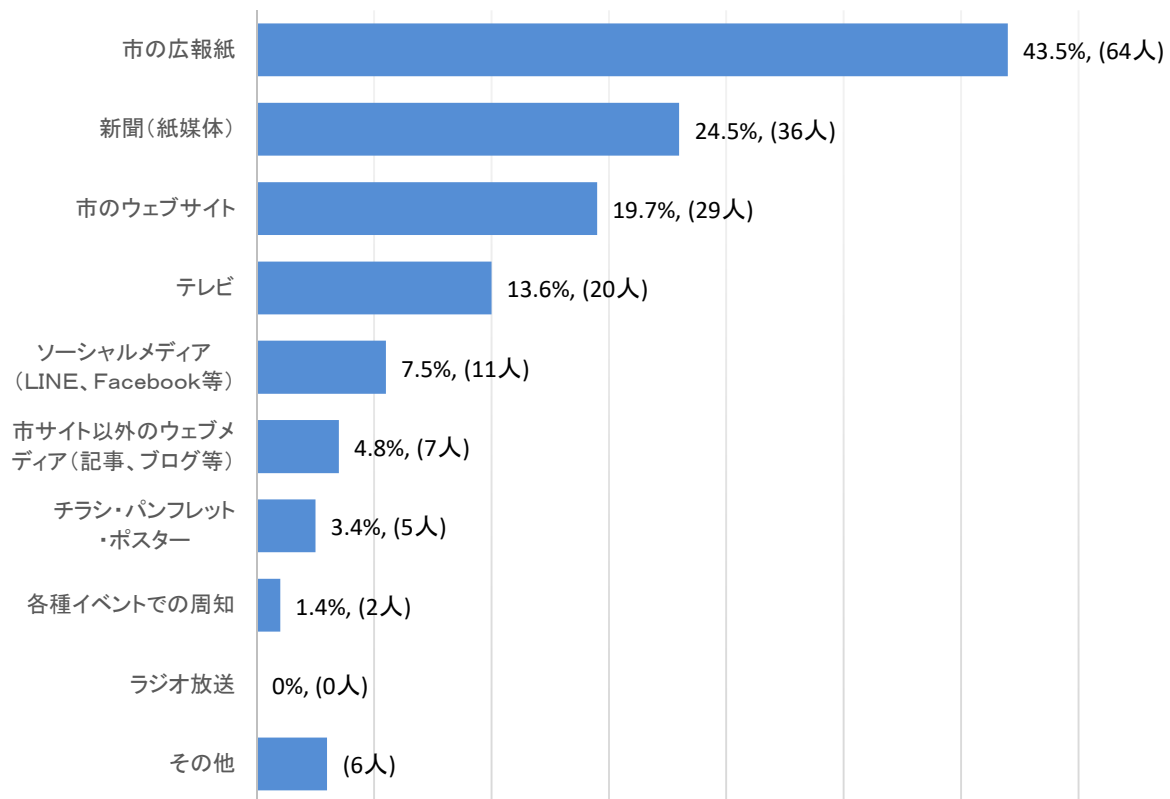
こおりやま広域圏を「知っている」と回答した方のうち「二本松市との連携協約」について知っていると回答した方は、40.1%であった。

年代別では、70代の認知度が59.3%で最も高く、60代の認知度が23.8%で最も低くなっており、50%以下の年代がほとんどである。

性別では、「知っている」で男性が女性より8.6ポイント高い。

問4 問2で「知っている」を選択した方にお伺いします。どのような方法で
知りましたか？ (3つまで選択可)

(回答者：147人)



※「その他」を選択した方の主な意見

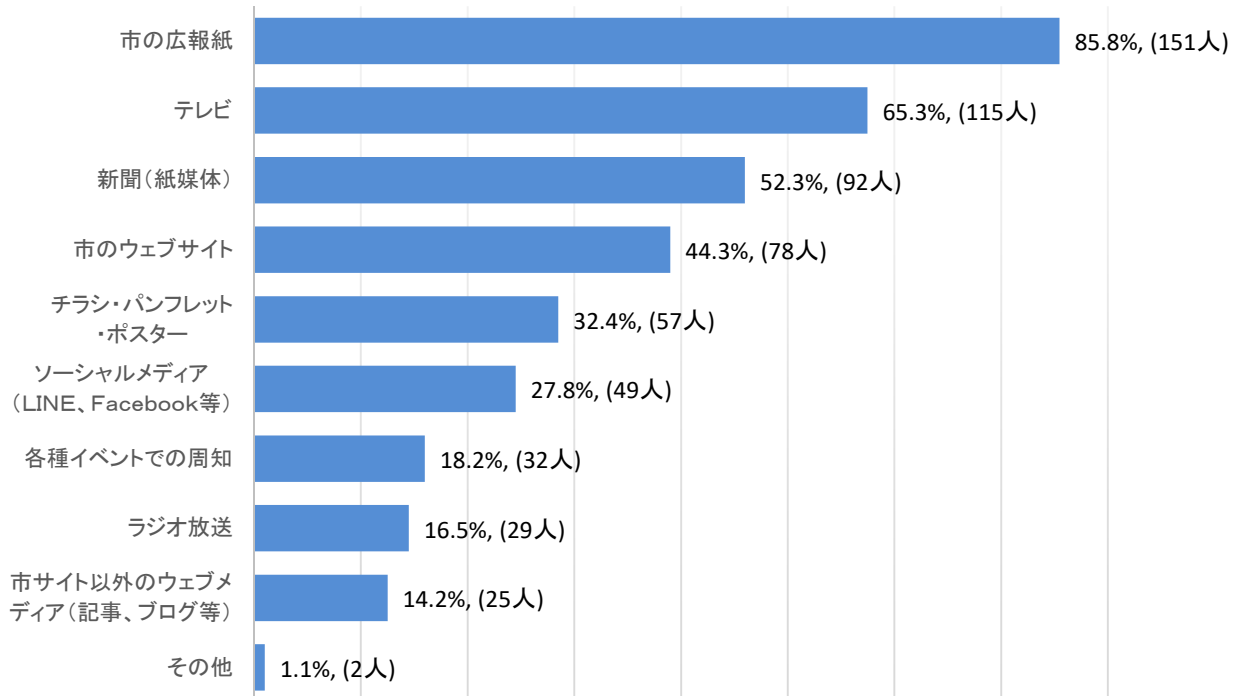
- ・あすまち会議こおりやま（無作為抽出による市民ワークショップ）
- ・他市町村の広報
- ・主催している勉強会（市職員から説明あり）
- ・あさかの大学の授業

こおりやま広域圏を知った媒体としては、「市の広報紙」が43.5%と最も高く、次いで「新聞（紙）」が24.5%、「市のウェブサイト」が19.7%、「テレビ」が13.6%となっている。

相対的に、デジタル媒体よりも紙媒体からこおりやま広域圏の情報を得ている方が多い。

問5 問2で「知らない」を選択した方にお伺いします。周知を強化するためには、どのような方法に力を入れてほしいと思いますか？（3つまで選択可）

（回答者：176人）



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・学校の授業
- ・回覧板

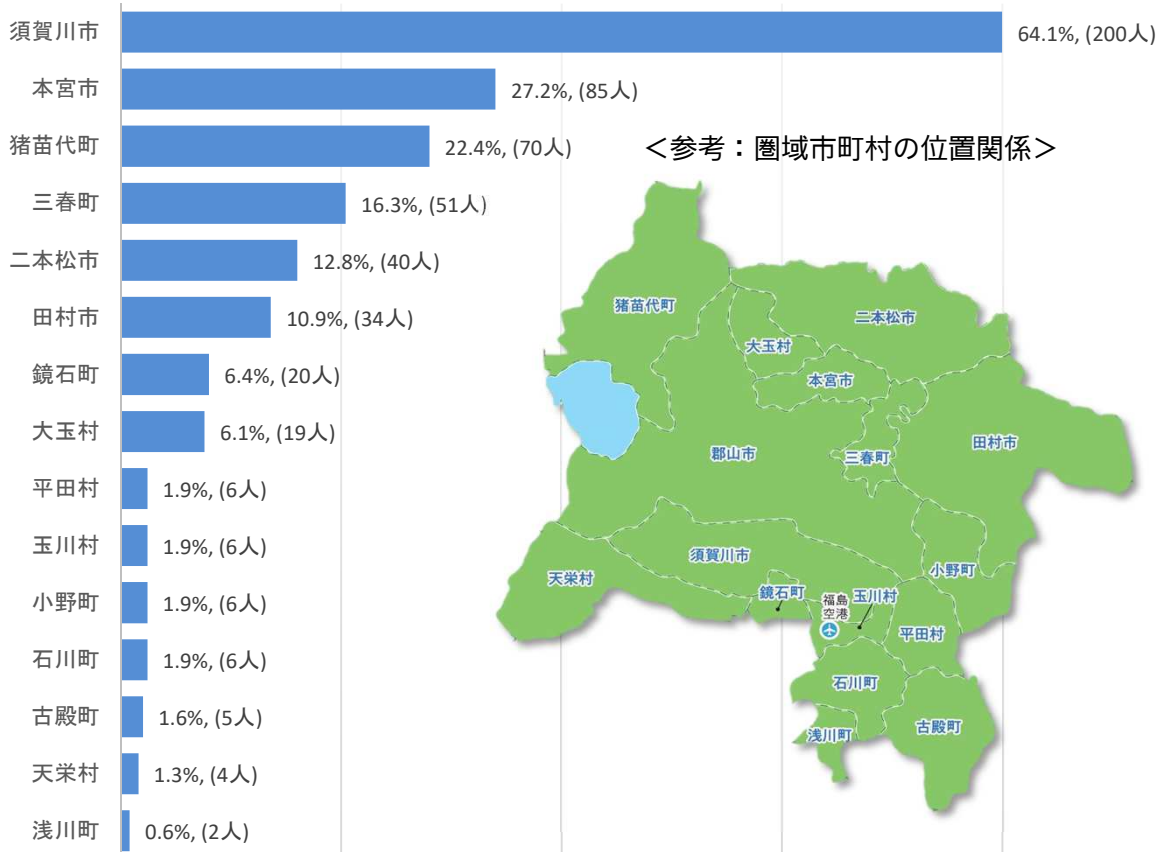
周知を強化するための方法については、「市の広報紙」が85.8%と最も高く、「新聞（紙）」の52.3%と合わせて、前設問と同様、紙媒体の需要が相対的に高いことがうかがえる。

また、「テレビ」が65.3%、「ラジオ放送」が16.5%と、メディア媒体についても高い需要があることから、さらなる有効活用を検討する必要がある。

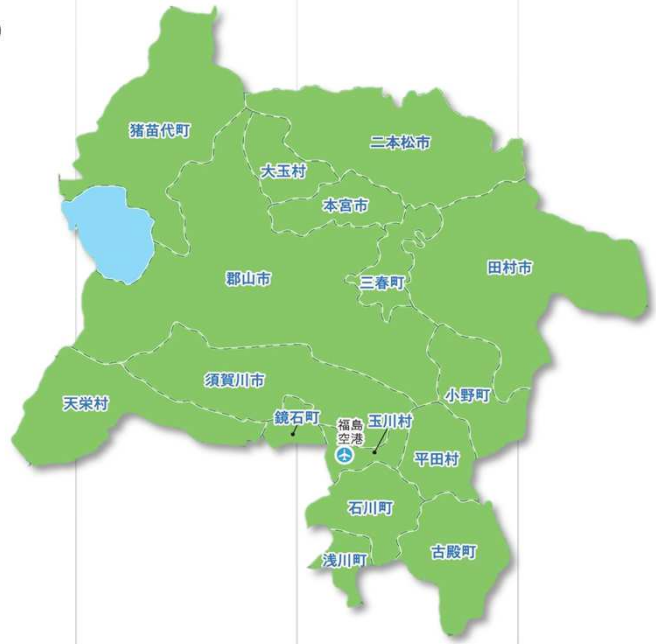
なお、デジタル媒体については、「市のウェブサイト」44.3%、「ソーシャルメディア」27.8%となっており、紙媒体やテレビ等メディアとの効果的な組み合わせが今後の検討課題である。

問6-1 あなたは、現在、どの市町村と交流が深いですか？（2つまで選択可）

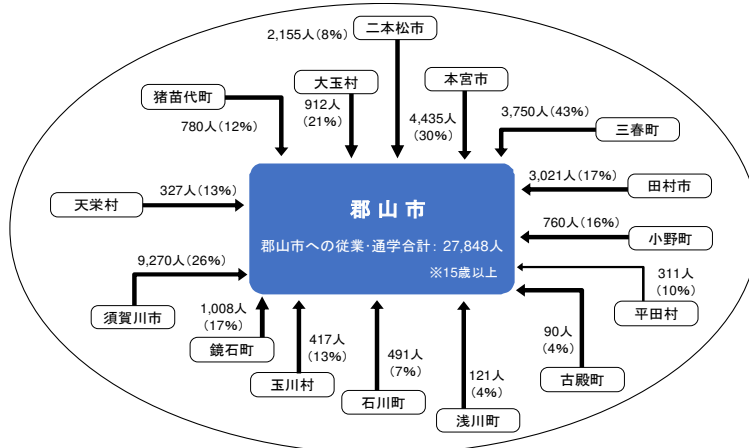
（回答者：312人）



<参考：圏域市町村の位置関係>



<参考：郡山市への通勤通学割合「国勢調査（2015年）」>

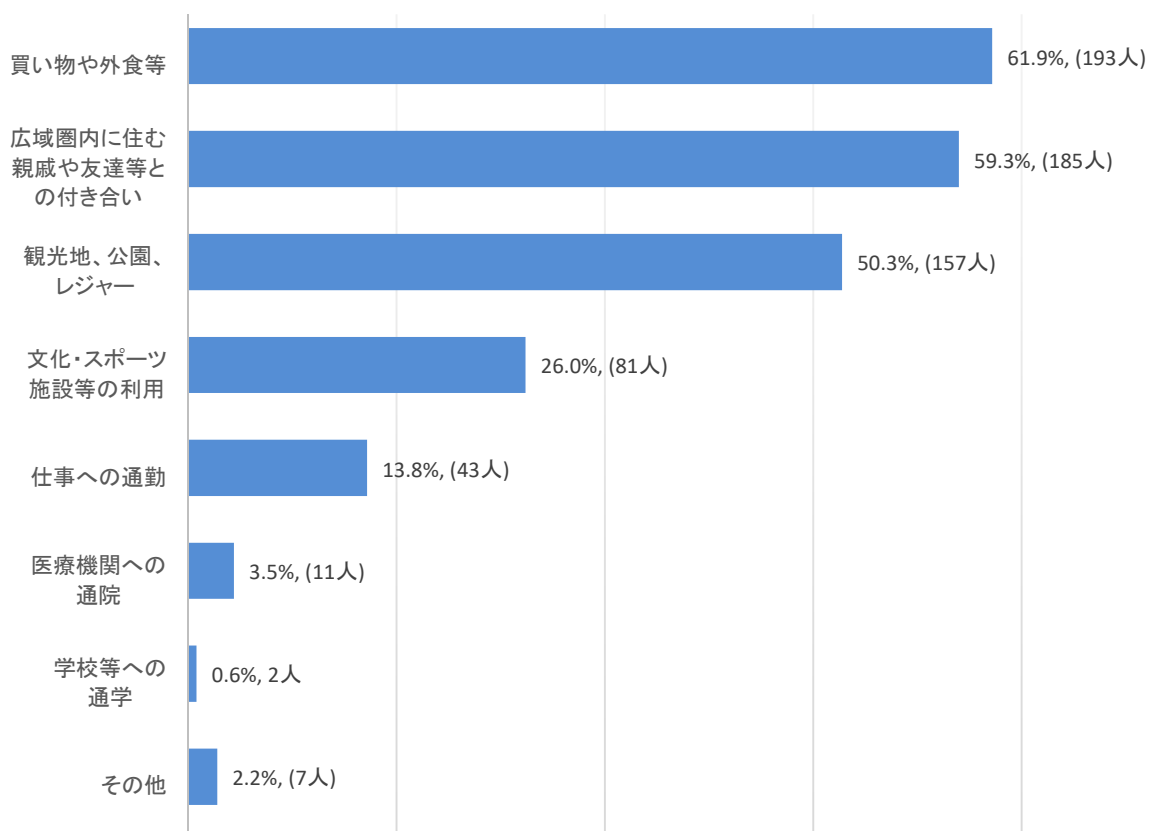


交流が深い連携市町村については、本市と隣接しており、人口も多い「須賀川市」が、64.1%と最も高い。次いで「本宮市」、「猪苗代町」、「三春町」と、本市に隣接する市町村が続いており、距離的な近さ（交通アクセス）と交流人口の関連性がうかがえる。

全体としては、回答者の大多数が、こおりやま広域圏の市町村と関りをもっており、市町村間で双方向的な交流が行われている。

問6-2 問6-1で選択した市町村と、どのような交流をされていますか？
(2つまで選択可)

(回答者：312人)



※「その他」を選択した方の主な回答

- ・ボランティア活動
- ・金融機関の関係
- ・福島空港の利用

連携市町村との交流内容については、「買い物や外食」が61.9%と最も高く、次いで「親戚や友達等との付き合い」59.3%、「観光地・公園・レジャー」50.3%の順になっている。

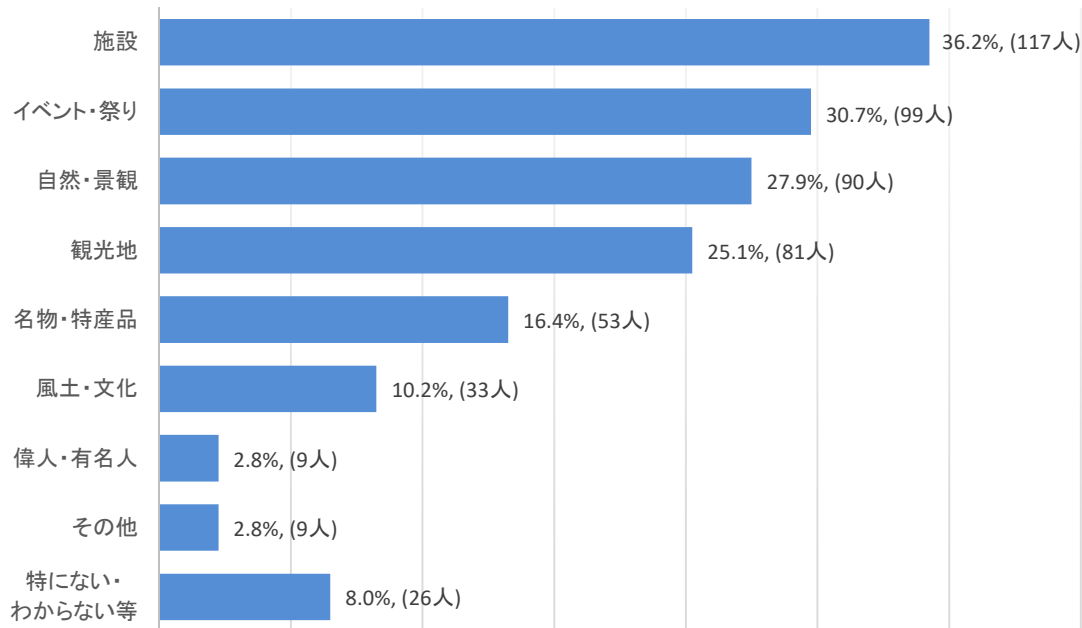
全体としては、回答者の大多数が、買い物や観光・レジャー、親戚や友人との交流等でおおみやま広域圏の市町村と関りをもっている。

問7 こおりやま広域で圏域外に自慢できるような特徴は何だと思いますか？

※分類を選択後、具体的な内容を回答（2つまで選択可）

（回答者：323人）

< 分類 >



・分類別の具体的な内容（主なもの）

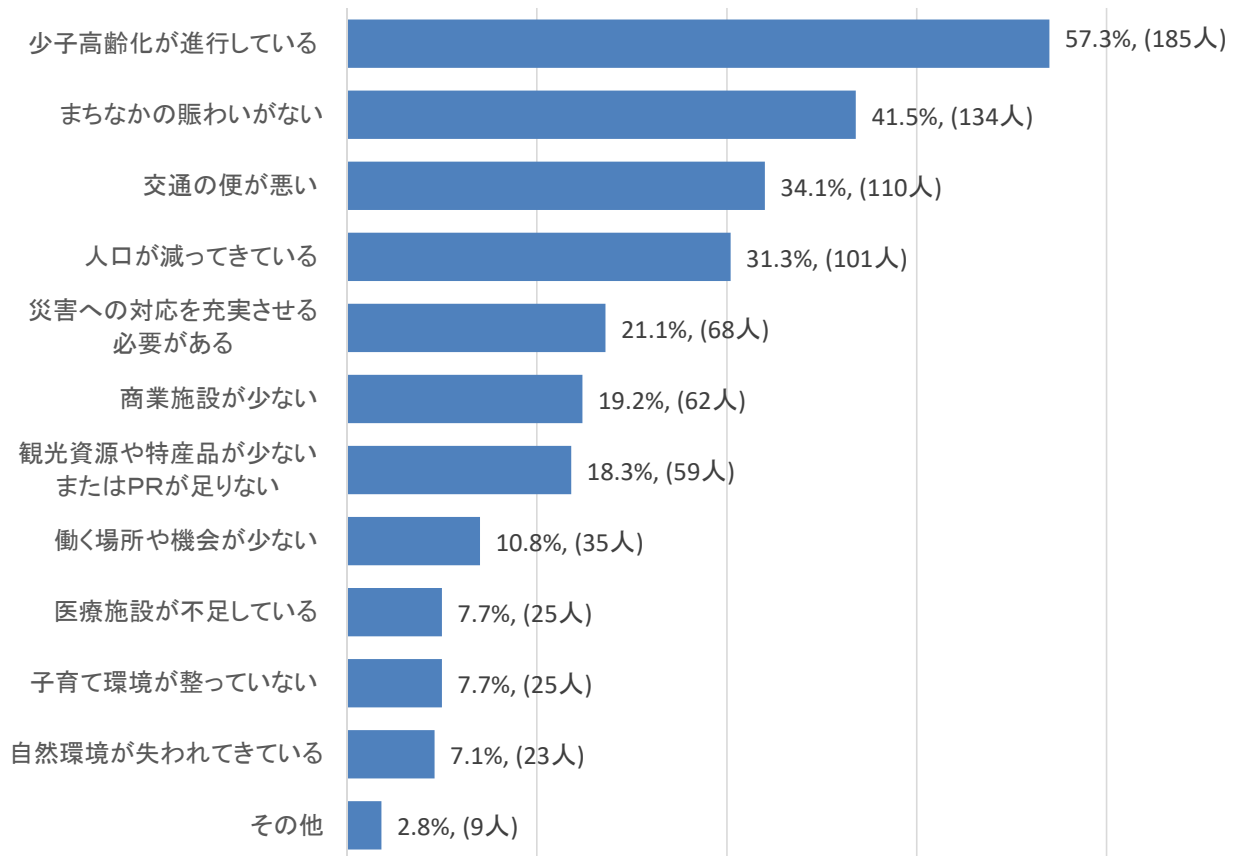
■施設	各商業施設、集客施設（ビックパレット、ビックアイ（プラネタリウム）、tette、岩瀬牧場 等）、公園・子どもの遊び場（カルチャーパーク、ペップキッズ、みずいろ公園、プリンス・ウィリアムズ・パーク等）、医療施設 等
■イベント・祭り	イベント（駅前やビックパレットでのイベント、イルミネーション等）、地域のお祭り（うねめ祭り、安積國造神社例大祭、釈迦堂川花火大会、松明あかし、二本松提灯祭り、等）
■自然・景観	山（磐梯山、安達太良山、里山）、猪苗代湖、桜の名所（三春の滝桜等）、田園の風景 等
■観光地	磐梯山、安達太良山、猪苗代湖、日本遺産の安積疏水、あぶくま洞、滝桜、温泉、道の駅、スキー場、キャンプ場 等
■名物・特産品	日本酒、米（あさか舞等）、野菜、各種銘菓、その他各地域の名産品（三春駒等） 等
■風土・文化	安積疏水、音楽都市（郡山市）、神社やお寺等の歴史的な遺跡類 田舎暮らし、各市町村の独自の文化 等
■偉人・有名人	偉人（野口英世、安積良斎）、有名人（西田敏行） 等
■その他	スポーツチームのホームタウン（福島ファイヤーボンズ、デンソーエアリービーズ） 等

圏域外に自慢できるような特徴については、「施設」と回答した方が36.2%で最も高く、郡山市のビックパレット等の他、須賀川市のtetteや本宮市の水色公園等、連携市町村の施設も多くあげられた。

次いで、松明あかしや提灯祭り等の「イベント・祭り」、猪苗代湖等の「自然景観」、あぶくま洞等の「観光地」の順となっている。

問8 現在、こおりやま広域圏において「共通課題」と感じるのは、どのようなものですか？（3つまで選択可）

（回答者：323人）



※「その他」を選択した方の主な意見

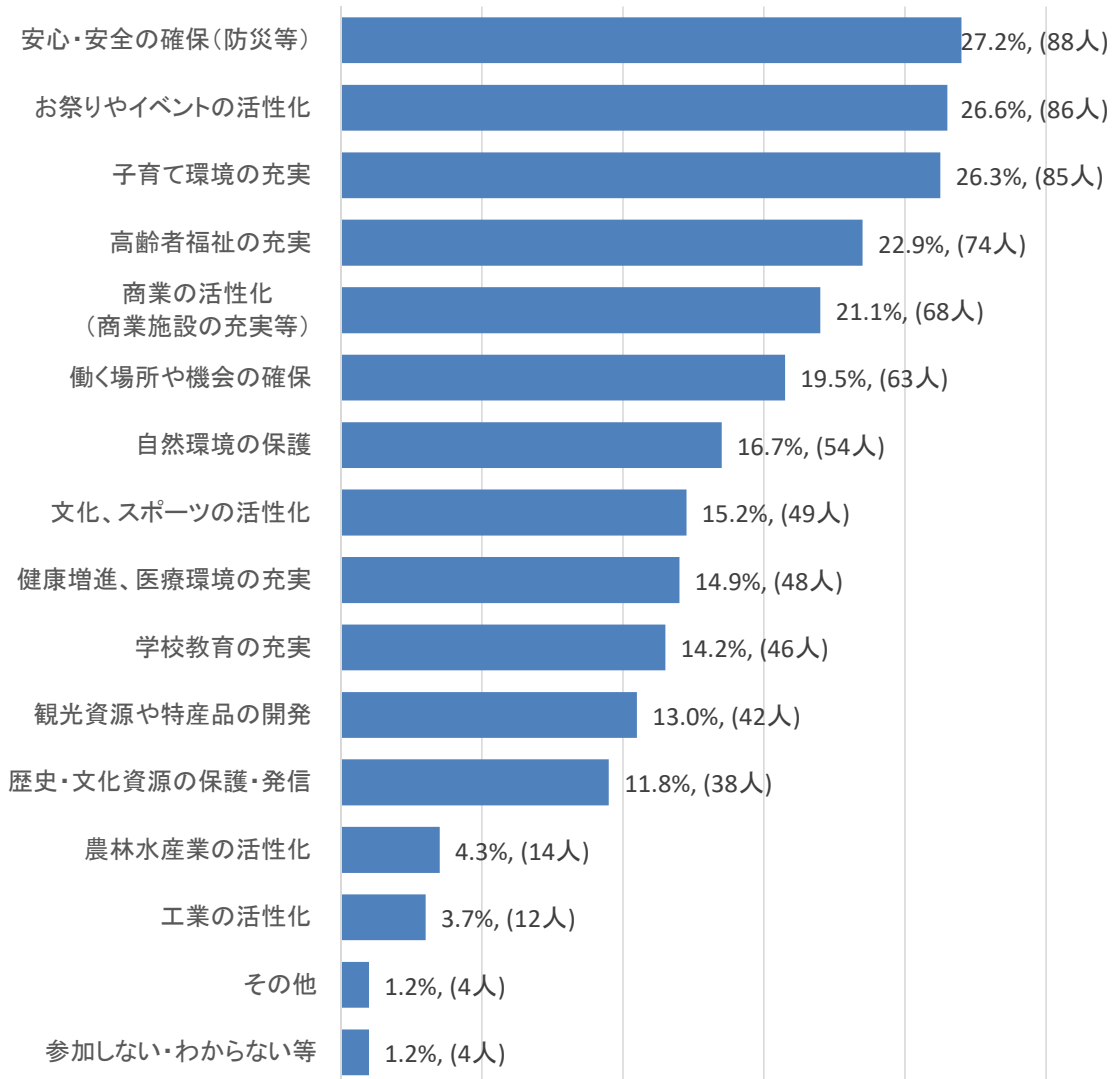
- ・これといった目立つ人や団体がない
- ・治安がよくない
- ・福祉サービスの連携不足

こおりやま広域圏の「共通課題」と感じるものについては、「少子高齢化が進行している」が57.3%と最も高く、次いで「まちなかの賑わいがない」41.5%、「交通の便が悪い」34.1%、「人口が減ってきている」31.3%の順となっている。

人口減少・少子高齢時代を迎える中で、まちなかの活性化やネットワークづくりなどが課題と認識されている。

問9 こおりやま広域圏を発展させるために、あなたはどのような分野で参加したいですか？（3つまで選択可）

（回答者：323人）



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・道路環境（渋滞）を整備のためのアンケート調査
- ・地域づくりのための意識啓発・取り組み

参加したい分野としては、「安心・安全の確保（防災等）」が27.2%で最も高く、東日本大震災や近年多発する豪雨災害等から、防災への意識が高まっている。
次いで「お祭りやイベントの活性化」26.6%、「子育て環境の充実」26.3%、「高齢者福祉の充実」22.9%と続いているが、全体的に回答が分散しており、産業、福祉、教育等、幅広い分野において関心を持たれている。

問10 「中枢都市」である郡山市が特に求められる役割はどのようなものであると思いますか？（自由記述）

（回答者：159人）

回答事例（主なもの）	
■リーダーシップ・まとめ役・交流促進等	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な方針を掲げ、リーダーシップを発揮 ・広域圏の一体化がもってはかれるようなリーダーシップ ・リーダーシップと各市町村の自主性尊重 ・イニシアティブを握っただけのリーダーではなく、他の市町村を結ぶつなぎ役にもなる ・圏内市町村の連携の場づくりや調整役に ・自らが率先し、活性化の取り組みを発信すると同時に他市町村との交流をはかる 等
■産業の促進等	<ul style="list-style-type: none"> ・商業都市としての発展によって地域を引っ張っていくこと ・働く場所を増やす 等
■交通の充実等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域間をつなぐ交通手段の充実 ・交通の便を活かした経済・観光の拠点 等
■医療関連の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・医療充実させ、近隣市町村からも多くの人を受け入れる体制を作る ・地域格差がある医療設備をととのえる支援 等
■情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の良さを上手にアピールする ・各分野毎に何を狙っているのか、明確にすべき。アピールが足りない 等
■安心安全保（防災等）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係の充実で他市町村の支援 ・消防や救急などのとりまとめ
■イベント実施	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村住民全体が参加出来るイベント開催 ・各市町村の特性を生かしてそれぞれの活動を集約し、方向性を持ったイベントを開催 等
■その他	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁まで行かなくても、郡山でほとんどのことが手続きできるようになること ・市や市民が外（県外、海外）に対して開放的であること ・観光客誘いやイベント、学会等の誘致 ・市民の思考の向上と子ども達への教育の充実 ・福島県を代表する都会的なまちづくり ・須賀川tetteのような複合施設を建設すること ・高齢者が安心して住める街のモデルに 等

郡山市が特に求められる役割について、リーダーシップやまとめ役等に関する回答が多く、中枢都市として圏域全体の発展をけん引することが期待されている。
他にも、産業や医療、交通といった都市基盤の整備、住民手続きの利便性向上等、様々な回答がみられた。

問11 郡山市以外の連携15市町村に求められる役割はどのようなものかと思えますか？（自由記述）

（回答者：138人）

回答事例（主なもの）	
■連携への理解・協力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ONE TEAM（ワンチーム） ・連携に対する理解 ・郡山市との密接な関係強化 ・地域を限定しない広域的な観点に立った活動 ・全てにおいて特徴や不足分野を明確にして連携を求める ・政策の協調性 ・広域圏の課題の提示 等
■それぞれの強み、特性の発揮等	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身ではなく積極性を持ち、イベント等の開催を活性化に寄与 ・それぞれの得意分野での連携 ・他にない強みのような特色を出していき、競合することなく無いものを補っていければよい ・各市町村のブランド力アップ ・各地域の独自性を大切にする 等
■情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ご当地の魅力をもっと発信すべき ・それぞれの知名度をあげる ・広域圏それぞれのメリットの見える化 等
■観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設やお祭り、イベント等積極的な広報 ・特産品の開発や観光地の整備 等
■特産品等	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村それぞれの特産品の開発 ・レジャー感覚で出かけて求められる農産物の充実と宣伝等
■その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村を超えた人とのつながりを大事にする ・田舎の良さや祭など、都会とは逆の環境 ・地域の伝統の継承、自然環境の保護 ・農業林業の連携 ・互いに良きライバルとして高め合う ・郡山の良い所を貪欲に吸収してほしい 等

郡山市以外の連携市町村に求められる役割について、前設問の回答で多かった「（郡山市の）リーダーシップ」に対応するように、「連携への理解・協力」に関する回答が多い。

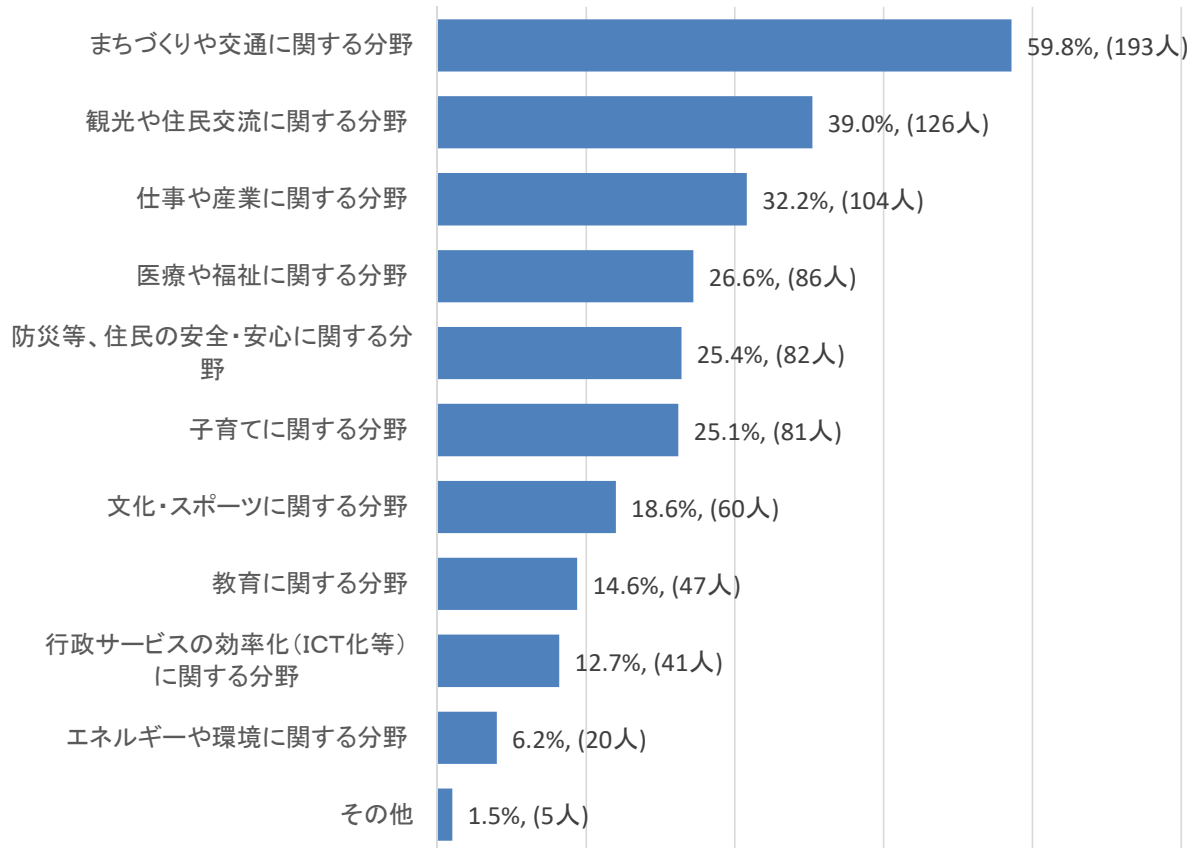
一方で、「それぞれの特性や強みの発揮」に関する回答も多く、各市町村が主体的に参画し、強みを生かした役割を果たすことが求められている。

その他、伝統文化や豊かな自然の保護といった、都市部にはない「田舎のよさ」があげられる等、幅広い回答がみられた。

問12 今後、どのような分野で近隣市町村と連携を深めていくのが重要であると考えますか？

(3つまで選択可)

(回答者：323人)



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・原発廃炉、汚染水と汚染土の処理

今後連携を深めていくのが重要と考える分野について、「まちづくりや交通に関する分野」が59.8%と突出して高いが、以降は「観光や住民交流に関する分野」39.0%、「仕事や産業に関する分野」32.2%、「医療や福祉に関する分野」26.6%、「防災等、住民の安全・安心に関する分野」25.4%、「子育てに関する分野」25.1%と、回答が分散している。

まちの賑わい創出や交通ネットワーク形成等と併せて、産業、福祉、教育等、バランスが取れた施策展開が求められている。

問 13 その他、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

（回答者：67人）

（主な意見）

■ 広域圏の認識と情報発信について
<p>・連携中枢都市圏の制度を今回初めて知りました。まだまだ知らない人が多いと思うので、周知していく必要があると思います。また、具体的にどんなことをするのか、しているのかを発信していくといいと思います。（30代・女性）</p>
<p>・郡山市も近隣市町村も、素敵なイベントや制度がたくさんあるのに、その情報にたどり着けない人が多いのではと思います。PRももちろんですが、興味を持った人が最新情報にたどり着けないのはもったいないので、最新の情報にアクセスやすくしてほしいと思います。（20代・女性）</p>
■ 連携のあり方について
<p>・一つの都市だけではもう成り立たなくなっている時代なので、地域間格差にならないよう、平等に安心して過ごせるまちづくりをしてほしいと思います。近隣市町村と協力して、縦のつながりだけでなく、横のつながりも大切にしてほしいです。（40代・女性）</p>
<p>・人口減少、多岐に渡る行政業務と、一市町村ではどうしようもないことが増えてきている中、多くの市町村と連携していくのは、必要・必然的なことだと思います。その反面、市町村合併でも明らかなように、何でもかんでもが都市部に集中してしまうことが懸念されます。（60代・男性）</p>
<p>・人口が減っている中で、お互いの資源を共有したり、線引きを無くせることは協力して行うべきだと思います。独自のやり方から共通の方法に変え、人材の交流で良い点を取り入れていく等、改革のチャンスだと思います。（50代・女性）</p>
<p>・名ばかりにならないような「持続性」が必要だと思います。（70代・男性）</p>
<p>・「広域圏を盛り上げたい」と熱意ある若者や団体を応援してほしいです。（40代・男性）</p>
■ 産業経済、都市機能の向上について
<p>・少子高齢化が急激に進む中で、若者が地元で定着できる仕事場の確保が重要です。また、災害の無い工業団地と商業施設の拡充が急務です。（70代・男性）</p>
<p>・大型商業施設の誘致と各市町村の商店街を充実させて、訪れやすいまちづくりが必要と考えます。（40代・男性）</p>
<p>・人口減少や都市部への流出が考えられるので、郡山市等に機能を集約し、広域圏内でのサービスを効率化する必要があると思います。そのためには、道路網を整備し、交通をスムーズにしたいです。（40代・男性）</p>
■ 住民サービスの向上について
<p>・何のために広域連携をしようとしているのか、その目的が大切だと思います。高齢化に伴って移動が難しくなる住民が、より近い隣の行政窓口でサービスを受けられるなど、住民の暮らしに利便性や恩恵をもたらすものであってほしいです。（50代・女性）</p>
<p>・今後も、今年のように災害が日本全国で起こるようになるかと思っています。その際に水、食料をはじめ避難所など広域的に確保する必要があるため、そのために普段からの連携が必要になると思います。（60代・男性）</p>
<p>・魅力ある広域圏を築くため、特に文化・スポーツ・観光・イベントを充実させてほしいです。また、若者層のインターンシップに期待したいと思います。（60代・男性）</p>